

# 中国の中の世界、世界の中の中国

慶應義塾大学法学部教授 国分良成

- \* 政治権力が問題の核心
- \* 許されたのは「鉄道部」批判
- \* メディア報道の背後事情
- \* 中国人には「なかなかいい政府」
- \* 軍事費は党の考える軍事力
- \* 成長の原動力をどうするか
- \* 強くなる社会と民間
- \* 中国の目指すものとは
- \* 政治改革は不可避
- \* 日本重視を本物に



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

3週間お休みをいただきましたが、夏休み明けは国分先生においでいただきました。中国問題では国分さんはわが国屈指の先生ですけれども、それにしても今日のレジュメは項目が多いですね。前回も多くて、「講演録」を読み直してみたら「このレジュメを全部しゃべるには4時間かかる」とご自身がおっしゃっていました。今日もそうとうはしられることになるでしょう。

慶大の法学部長は9月までということで、10月からはまた気分よく研究活動に専念されることになるうかと思えます。一冊、ご本を紹介しておきます。3月に編著で出された岩波新書の『中国は、いま』です。世の中にとっては内容

が歯応えがありすぎて、それほど好調に売れているということではなさそうですが、わが経済倶楽部の会員の方には非常にいい本だと思います。ぜひお読みください。『週刊東洋経済』の経済書のランキングで今年上期の7位に堂々入っています。それではよろしくお願いいたします。（拍手）

国分 どうもありがとうございます。またこの会にお招きいただきまして光栄に思っております。非常に多くの先輩の方々がおられるものですが、今日は中国の中の問題と、それから外から中国を見た国際関係と、この二つの視点をお話ししたいと思います。例によってレジュメをつくると欲張ってしまい、あれもこれもと